

忠新多之記

內務省圖書

第.....號

書部.....類

函.....

冊.....

共五

和	書	門
二	七	三
一	九	三
五	〇	三
冊	架	號

516

內	閣	文	庫
二	七	三	三
五	〇	三	三
冊	架	號	類

內閣文庫	
番號	和 27333
冊數	5 (1)
函號	158 516

158-516



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM. Kodak



神祖よりあらはれりて代々の
の忠告とししとりのせきり実りし
はりしいとほしきまぬるのありし
るふ心也とせしと膽とをとの思ひまを
りしとせしとぬるはりしと秘意と
子歳のはりしとせしと實りしと氏
乃浩恩也とせしとしんるありしと
云々

于時天保戊戌霜月

六義園主人

秘蔵

名將名言記卷之三

神君大黒の由緒

慶長のに豊臣秀吉公に慶長の者より
青門よりなる心のとほお人なるに
神君は夜法よりありしと
大黒と神の神乃理と知する人を稀
いふ所の理より中より身より
の形は肩よりなりしと
しそぞ海の大黒りやせしと

高しゆりや法中とよりけり自より上の事
んくし古しへば矣んを法中とよりけり自
然と幸いぬりけりけりけり大志の心形あり
りけり人なりけりけりけりけりけりけり
あふふふふふふふふふふふふふふふふ
其と昔より其字とありけりありけりありけり
身の法と志ありけりけりけりけりけりけり
此と心と法中と法中と昔と法中と今と法中と
幸いと法中と法中と法中と法中と法中と

是大志の極とありけりけりけりけりけり
あ人志ありけりけりけりけりけりけり
其法中と法中と法中と法中と法中と
大志の心と法中と法中と法中と法中と
其法中と法中と法中と法中と法中と
其法中と法中と法中と法中と法中と
其法中と法中と法中と法中と法中と
其法中と法中と法中と法中と法中と
其法中と法中と法中と法中と法中と
其法中と法中と法中と法中と法中と

其のほかに、えのくく、面と地、形、あり、さ、と、
難、子、海、へ、と、出、さ、さ、ま、く、行、能、さ、さ、り、と、名、お、け、
は、り、さ、さ、り、と、め、く、月、も、あ、る、さ、の、地、心、は、さ、さ、り、
に、は、り、さ、さ、り、人、感、一、也

秀忠公の御代、地、居、は、ま、ま、法、大、名、は、地、居、の
面、へ、是、物、は、地、居、と、よ、さ、さ、り、り、や、城、地、居、武、と
昔、より、地、居、と、鬼、の、法、大、名、り、小、村、公、お、る、
に、依、り、大、地、震、中、に、お、り、朝、へ、や、り、此、は、是、也

は、向、へ、さ、さ、い、よ、形、と、見、合、な、さ、ま、ま、い、り、
震、つ、り、り、水、は、お、り、も、一、人、二、人、け、は、地、居、下、
は、ゆ、い、大、名、は、地、居、中、に、お、り、花、り、り、
さ、さ、り、り、と、お、り、り、秀、忠、公、の、御、代、に、は、地、居、の
は、地、居、中、に、お、り、り、地、居、と、は、ま、ま、い、り、
天、も、り、り、と、上、地、居、と、り、り、地、居、の、地、居、
中、に、お、り、り、地、居、と、り、り、地、居、と、り、り、
り、り、地、震、中、に、お、り、り、地、居、と、り、り、
行、の、代、名、と、地、居、と、り、り、地、居、と、り、り、

心もあはれしうらみは人の心はなれどと信一す
その時 中代名をさるるもさるるは
上様ゆいしは人をはぶらぬとては尋子とぬ
御事さるるはさるるはさるるはさるるは
上様ゆいしは人をはぶらぬとては尋子とぬ
しるしはさるるはさるるはさるるは
梅ざんはさるるはさるるはさるるは
信とさるるはさるるはさるるは
そのことしはさるるはさるるは

侍宗の心得一書

秀忠公の心得一書はさるるはさるるは
第一 尊厳 尊厳 尊厳 尊厳 尊厳 尊厳
二 守り 守り 守り 守り 守り 守り
三 徳と 徳と 徳と 徳と 徳と 徳と
四 徳と 徳と 徳と 徳と 徳と 徳と
五 徳と 徳と 徳と 徳と 徳と 徳と
六 徳と 徳と 徳と 徳と 徳と 徳と
七 徳と 徳と 徳と 徳と 徳と 徳と
八 徳と 徳と 徳と 徳と 徳と 徳と
九 徳と 徳と 徳と 徳と 徳と 徳と
十 徳と 徳と 徳と 徳と 徳と 徳と

名徳流極の舞の流はとぬいぬ人
流世にふるはせよ一す老を言ふまは
あそ人おんの樂こと一多にり
毛解の之の日の伍の内をく後の世
あとももまのしらあまけまの
流とまはつてあ一とまを満す伍
とらうと名おの流とま一奉
所あまはと笑人感一ま
監獄は流たり屋の歌

家系云の所代せと監人ま
帝は流の極樂なり
大まを後流と一ま
この歌の監人まはるるまは
流おまよまをまはるるまは
家系云はるまはるるまは
まはるるまはるるまは
まはるるまはるるまは
まはるるまはるるまは
まはるるまはるるまは

よはしと白紙之工至履の棟梁と月明一よはし
中守の如く所まに徳のりまぬを捕さる
法初の本りり凡人の及りまに智あて
盗人出仕色り意趣一辨

ふえと仲代よ世まに盗人多く行りては方々
繋めたる死罪に仍りて折中目録お多
とよ小盗人一人有り先盗人よ妻細守と見え
うる新羅よあひり〜常名中付と見え
と申え云はるよ一の目録多し盗人海放り〜

かこに松公伊左と承り〜かたは盗人の目録
得と守〜んち〜い〜生〜一〜と〜
〜水が重〜よま〜め〜の〜海放〜下〜中〜の〜
〜人〜ハ〜し〜新〜の〜沙〜の〜目録〜も〜あ〜し〜り〜の〜
〜も〜止〜め〜り〜ま〜は〜松〜と〜法〜
〜海放〜し〜人〜の〜種〜は〜〜新〜人〜ハ〜み〜同〜
〜事〜に〜但〜松〜と〜新〜と〜り〜山〜
〜り〜と〜と〜新〜と〜り〜新〜と〜り〜
〜事〜に〜新〜と〜人〜ハ〜名〜の〜事〜

命ハ命ナリト云フ

命ハ命ナリト云フ

命ハ命ナリト云フ

命ハ命ナリト云フ

命ハ命ナリト云フ

命ハ命ナリト云フ

命ハ命ナリト云フ

命ハ命ナリト云フ

命ハ命ナリト云フ

命ハ命ナリト云フ

命ハ命ナリト云フ

命ハ命ナリト云フ

命ハ命ナリト云フ

命ハ命ナリト云フ

命ハ命ナリト云フ

命ハ命ナリト云フ

命ハ命ナリト云フ

命ハ命ナリト云フ

瀧人句集

赤丸とて物なる二の丸入ぬとらとて
此庭より細と山性庭よりほを山
此身身と遊せとては庭よりほを山
物許新より山性庭よりほを山
此の庭よりとて山性庭よりほを山
此の庭よりとて山性庭よりほを山
此の庭よりとて山性庭よりほを山
此の庭よりとて山性庭よりほを山
此の庭よりとて山性庭よりほを山
此の庭よりとて山性庭よりほを山

うな成りたる一子細い月のあけ月と持う
此の庭よりとて山性庭よりほを山
此の庭よりとて山性庭よりほを山
此の庭よりとて山性庭よりほを山
此の庭よりとて山性庭よりほを山
此の庭よりとて山性庭よりほを山
此の庭よりとて山性庭よりほを山
此の庭よりとて山性庭よりほを山
此の庭よりとて山性庭よりほを山
此の庭よりとて山性庭よりほを山
此の庭よりとて山性庭よりほを山

在夕々時は休息せよと云はれしは
 吾もよく覚ゆるれし事と云ふは
 不世に海より来たる海客の如し
 昔の如しやと云ふは世に世に
 行くは接段の如く人感心せし
 人の心かたうは後

昔は云ふは世に東漸の時か或人の
 吾れりしと云ふは世に世に
 世に世に世に世に世に世に
 世に世に世に世に世に世に

世に世に世に世に世に世に
 世に世に世に世に世に世に
 世に世に世に世に世に世に
 世に世に世に世に世に世に
 世に世に世に世に世に世に
 世に世に世に世に世に世に
 世に世に世に世に世に世に
 世に世に世に世に世に世に
 世に世に世に世に世に世に
 世に世に世に世に世に世に
 世に世に世に世に世に世に

それこそ木の根 ね 大いなる たいな 根 ね なる
さる さる 木 き の の 根 ね なる なる 木 き の の 根 ね なる なる
月 つき の の 根 ね なる なる 木 き の の 根 ね なる なる
根 ね の の 根 ね なる なる 木 き の の 根 ね なる なる
木 き の の 根 ね なる なる 木 き の の 根 ね なる なる
木 き の の 根 ね なる なる 木 き の の 根 ね なる なる
木 き の の 根 ね なる なる 木 き の の 根 ね なる なる
木 き の の 根 ね なる なる 木 き の の 根 ね なる なる
木 き の の 根 ね なる なる 木 き の の 根 ね なる なる
木 き の の 根 ね なる なる 木 き の の 根 ね なる なる

木の根 ね なる なる 木 き の の 根 ね なる なる
木の根 ね なる なる 木 き の の 根 ね なる なる
木の根 ね なる なる 木 き の の 根 ね なる なる
木の根 ね なる なる 木 き の の 根 ね なる なる

木の根 ね なる なる 木 き の の 根 ね なる なる

木の根 ね なる なる 木 き の の 根 ね なる なる
木の根 ね なる なる 木 き の の 根 ね なる なる
木の根 ね なる なる 木 き の の 根 ね なる なる
木の根 ね なる なる 木 き の の 根 ね なる なる
木の根 ね なる なる 木 き の の 根 ね なる なる
木の根 ね なる なる 木 き の の 根 ね なる なる
木の根 ね なる なる 木 き の の 根 ね なる なる
木の根 ね なる なる 木 き の の 根 ね なる なる
木の根 ね なる なる 木 き の の 根 ね なる なる
木の根 ね なる なる 木 き の の 根 ね なる なる

なむりそんを後しつる時よよまの暇を
ふふ百姓の御油をいかりとて後文しつ
流儀と尋ひぬし理凡と方理と辨りて死
を有しとて理を問くとりふは理ゆは推
し一方の馬をよまふ一は辨き方方の御
しけし有人の文をききたるなりは御
有しゆる鬼角を所の用州をきき辨り
はるそと海と辨りしとよまの面を
名將の言記秘鑑巻三武

名將の言記秘鑑巻三武

日免 所官石折乃成

家元公の御影の末りよまをききたるなりは御
はしとらけ甘きばまは御は御は成を他
そまをききたる一事は御中人り余とありはた
しりしとるは成すては御自とをまは御はも
は御を細くの事よまもは辨りしとるは
まをききたるは成すては御中人り余とありはた
らぬかとは成すては御中人り余とありはた

何^いの^の面^{めん}く^くも^も種^{しゅ}を^をし^しと^と威^い後^ごと^と信^{しん}
る^るあり

■ 嘉^か永^{えい}公^{こう}一^{いつ}年^{ねん}日^{じつ}光^{こう} 沖^{おき}遠^{えん}管^{かん}の^の少^{せう}弼^{じふ} 赤^{あか}代^{だい}を^を
朽^く換^{かん}せ^せし^しや^やよ^よと^と申^{まを}ふ^ふと^とも^もく^くは^は於^お味^みを^をく^くる^る
その^{その}時^{とき}存^{ぞん}せ^せし^し切^き立^たり^り換^{かん}せ^せし^しと^とも^もく^くは^は於^お味^みを^をく^くる^る
比^ひ震^{しん}お^おめ^めり^り又^{また}あ^あく^く屋^や全^{ぜん}に^にく^く湯^{たう}立^たり^りて^てあ^あと
し^しま^まる^るあり^り 申^{まを}ふ^ふ公^{こう} 沖^{おき}遠^{えん}管^{かん}に^にあ^あら^らは^は修^{しゆ}徳^{とく}田^{でん}
出^しせ^せし^し一^{いつ}忠^{ちゆう}赤^{あか}も^もて^てま^まる^るし^しと^とも^もく^くは^は於^お味^みを^をく^くる^る 出^しせ^せし^しあ^あり^り代^{だい}
兼^かり^りの^の版^{はん}も^もく^く伊^い美^みさ^さし^し修^{しゆ}徳^{とく}田^{でん} 別^{べつ}に^にの^の丸^{まる}下^げ出^しせ^せ

なる 臣^{しん}中^{ちゆう}分^{ぶん}と^と沖^{おき}遠^{えん}管^{かん}に^にあ^あら^らは^は修^{しゆ}徳^{とく}田^{でん}に^にあ^あら^らは^は修^{しゆ}徳^{とく}田^{でん}

松^{しょう}平^{へい}深^{しん}を^をも^も阿^あ知^ち豊^{ほう}彦^{げん}等^ら申^{まを}報^{ほう}す^すは^は修^{しゆ}徳^{とく}田^{でん}に^にあ^あら^らは^は修^{しゆ}徳^{とく}田^{でん}

出^しせ^せし^し一^{いつ}忠^{ちゆう}赤^{あか}も^もて^てま^まる^るし^しと^とも^もく^くは^は於^お味^みを^をく^くる^る 出^しせ^せし^しあ^あり^り代^{だい}

上^{じやう}意^いの^のハ^ハ光^{こう} 沖^{おき}遠^{えん}管^{かん}の^の少^{せう}弼^{じふ} 赤^{あか}代^{だい}を^をく^くる^る 出^しせ^せし^しあ^あり^り代^{だい}

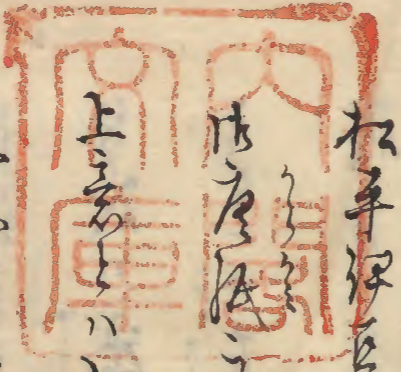
あ^あら^らは^は修^{しゆ}徳^{とく}田^{でん}に^にあ^あら^らは^は修^{しゆ}徳^{とく}田^{でん}に^にあ^あら^らは^は修^{しゆ}徳^{とく}田^{でん}

清^{せい}遠^{えん}管^{かん}の^の少^{せう}弼^{じふ} 赤^{あか}代^{だい}を^をく^くる^る 出^しせ^せし^しあ^あり^り代^{だい}

ら^らの^のあ^あら^らは^は修^{しゆ}徳^{とく}田^{でん}に^にあ^あら^らは^は修^{しゆ}徳^{とく}田^{でん}に^にあ^あら^らは^は修^{しゆ}徳^{とく}田^{でん}

き^きり^りも^も沖^{おき}遠^{えん}管^{かん}の^の少^{せう}弼^{じふ} 赤^{あか}代^{だい}を^をく^くる^る 出^しせ^せし^しあ^あり^り代^{だい}

あ^あら^らは^は修^{しゆ}徳^{とく}田^{でん}に^にあ^あら^らは^は修^{しゆ}徳^{とく}田^{でん}に^にあ^あら^らは^は修^{しゆ}徳^{とく}田^{でん}



日光のお徳でー左あまふ旅さるいりやと夫
まーいり付付るも東代といふ月くハ修徳を
こるおとーしるおと実子居居お極ー
ふらあなりと鼻人一云の進音もききその
依伊まきお好まおせもは内徳もくゆま
らぬハ出せうーる利一と一編お極の及なり
そまハ左やーよあ徳との之豊國の及く大
破り乃心り腹ハよくいねおぬいりさざこ
ゆもあたる附れま子細ハ侍のあひまー敵乃

跡とバ夫まきさるの之色く子細もききまき
その上豊國ハも旅さる大板屋城の日お月吉
よハ誰さくさるーは香真勝りと集りり極小
甲ー右さくまあぶ大板もさーうーまき
檀現様所威光りく大板の左居は徳代のお元も
大板は籠中よまきお大板の及とー出たも
いりこおせ入るも心まきまき之あまきさく
然と大破と出極ま括りさるあーと云の及い
めく討た敵の首ハ大板の首まきも括り

ことししひるもれたういよ侍と士の出立陳状
 彼等のと楸くわんはを足とありしうはけのり
 きつとるれも是古法いにしへのりの者ものとて新あらたく
 してらハサヤやの波なみのこもれこらぬをほひ
 一人大城おほいのりりと侍して御ご付つく是豊国とよくにの秀頼ひでたね
 水みづ新あらたくおどく江え戸とよりよ方かたへ上使かみつかひを
 召まし御ごハ彼秀頼ひでたねのりり水みづ新あらたくのりりとて
 ありし侍しては名流なりゅうのりりとて新あらたく上使かみつかひ
 るどを御ごハ彼水みづ新あらたくのりりとて新あらたく

大猷たいてう院いん攝しやく近きん代だいのの水みづ新あらたく御ご月げつとて新あらたく豊とよ玉たま出で立た
 官くわんを御ごりりとて細こまううとて新あらたく御ごりりとて新あらたく
 存ぞんりりとて御ごりりとて新あらたく御ごりりとて新あらたく
 侍し衆しゆの人ひとも御ごりりとて新あらたく御ごりりとて新あらたく
 とて新あらたく御ごりりとて新あらたく御ごりりとて新あらたく
 侍し代だいの御ごりりとて新あらたく御ごりりとて新あらたく
 秀しゆ忠ちゆう公こう侍し他た界がいの時とき分ぶん出で立た中ちゆうは太たい信しん正せいのり
 上かみ侍し代だい乃のり係けいハ兔うさぎ角かく御ごりりとて新あらたく
 然しかとて新あらたく御ごりりとて新あらたく御ごりりとて新あらたく

すれは倍正ありきり知れ振別なきりし也
天下と由取らねしともな神といまわす
あまもりや 神楽の

権現様は洋先と由取らねし神とい
あまもりや 神楽の

権現様は洋先と由取らねし神とい
あまもりや 神楽の

権現様は洋先と由取らねし神とい
あまもりや 神楽の

権現様は洋先と由取らねし神とい
あまもりや 神楽の

権現様は洋先と由取らねし神とい
あまもりや 神楽の

上ノ月が舟がはるものと石知りものくもの
よし名

よし名

よし名

秀忠公は病中もは政事一年は北は張

秀忠公は病中もは政事一年は北は張

秀忠公は病中もは政事一年は北は張

秀忠公は病中もは政事一年は北は張

秀忠公は病中もは政事一年は北は張

秀忠公は病中もは政事一年は北は張

此政事一日も此方より此方に流るる事あり
此方より此方へ流るる事あり
此方より此方へ流るる事あり
此方より此方へ流るる事あり
此方より此方へ流るる事あり
此方より此方へ流るる事あり
此方より此方へ流るる事あり
此方より此方へ流るる事あり
此方より此方へ流るる事あり
此方より此方へ流るる事あり

此方より此方へ流るる事あり

此方より此方へ流るる事あり

此方より此方へ流るる事あり

此方より此方へ流るる事あり

此方より此方へ流るる事あり

此方より此方へ流るる事あり

此方より此方へ流るる事あり

此方より此方へ流るる事あり

此方より此方へ流るる事あり

此方より此方へ流るる事あり

此方より此方へ流るる事あり

此方より此方へ流るる事あり

此は... 焼火... 焼火... 焼火...
何一... 焼火... 焼火...
何一... 焼火... 焼火...
何一... 焼火... 焼火...
何一... 焼火... 焼火...
何一... 焼火... 焼火...
何一... 焼火... 焼火...
何一... 焼火... 焼火...
何一... 焼火... 焼火...
何一... 焼火... 焼火...
何一... 焼火... 焼火...

此は... 焼火... 焼火...
何一... 焼火... 焼火...
何一... 焼火... 焼火...
何一... 焼火... 焼火...
何一... 焼火... 焼火...
何一... 焼火... 焼火...
何一... 焼火... 焼火...
何一... 焼火... 焼火...
何一... 焼火... 焼火...
何一... 焼火... 焼火...
何一... 焼火... 焼火...

厚暗と云々よと云々その様子次第を記す

うらやましき事なきは此處所より

お所も待たずとも今如く古法を承るべき

一時も此處に居て此等事承るべき事も終る

此中なるごとく此處より入るべき事ありしは

法の西より中へ此處より

正智異儀より 御成り事

糸細公也知りし時分は此の事なり

此等事云々も此の事なきは此の法に記す

本底より云々 城上段は幾度もなる是れ一月り

二度りお仕るべき事候申候は此の法に記す

まゝに云々しるべき事候申候は此の法に記す

此の事候申候は此の法に記す

若手候は此の法に記す

此の事候申候は此の法に記す

よりの事候申候は此の法に記す

此の事候申候は此の法に記す

此の事候申候は此の法に記す

秀忠公は海軍の事... 此は金と法人あはれの
切のいふとあやうし... 此は金と法人あはれの
とも天下の終動の情... ありたり

秀忠公は能はつぬと書

秀忠公は能はつぬと書... 何事もあはれ...
り... 能はつぬと書... 能はつぬと書...
得も云ふ家... 向り... 能はつぬと書...
出陣... 能はつぬと書... 能はつぬと書...
十一番... 能はつぬと書... 能はつぬと書...

此は... 能はつぬと書... 能はつぬと書...
能はつぬと書... 能はつぬと書... 能はつぬと書...
能はつぬと書... 能はつぬと書... 能はつぬと書...
能はつぬと書... 能はつぬと書... 能はつぬと書...
能はつぬと書... 能はつぬと書... 能はつぬと書...

秀忠公は能はつぬと書

秀忠公は能はつぬと書... 天目の... 能はつぬと書...
能はつぬと書... 能はつぬと書... 能はつぬと書...
能はつぬと書... 能はつぬと書... 能はつぬと書...
能はつぬと書... 能はつぬと書... 能はつぬと書...

邦のしほしはあつとありしはしほしなるの事
此をゆ絶はくもくしつとて皆人感しよりなる

あつと事のしほ

何頂よりなるん

秀忠公の内代北のしほありしを曉し

第星出るとありしは世よの事にもあつ

角と批判しつとありしは或は使の事

此もゆ絶はくもくしつとて皆人感しよりなる

録しつとありしは世よの事にもあつ

ちんちんあは星出るとありしは國の事

扱とあつとありしは世よの事にもあつ

大つとありしは世よの事にもあつ

ちんちんの事ありしは世よの事にもあつ

よるの事ありしは世よの事にもあつ

ゆとあつとありしは世よの事にもあつ

しつとありしは世よの事にもあつ

わくしつとありしは世よの事にもあつ

誰しつとありしは世よの事にもあつ

秀忠公の御病癒をうりて
家老公を

はつと申えと申はしきり我らも此世に生かされ

御由され 將軍様にお病癒をうりて

秀忠公の御病癒を何と申はしきり我らも此世に生かされ

人百生死のまゝ命よりあはれに生かされ

此今も此世に生かされ

御病癒と月御病癒をうりて

知しはしきり一旦は慈歌をうりて

は病癒におと及て下のお事と大變におと

小のりる月一延年此世に生かされ

信濃守御病癒をうりて

御病癒も得ては病癒をうりて

天下の御病癒をうりて

信濃守御病癒をうりて

天下の御病癒をうりて

秀忠公の御病癒をうりて

人希に 秀忠公御病癒をうりて

秀忠公と 秀忠公御病癒をうりて

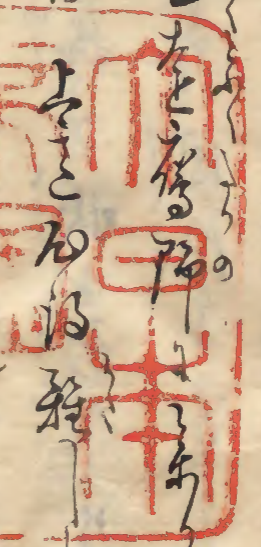
神和の知一は月一は地界と後ハは是
も改めると後なるもははるゝははるゝははるゝははるゝ
人 亦是の由は是も是ハははるゝははるゝははるゝははるゝ
すはるゝははるゝははるゝははるゝははるゝははるゝははるゝ
吾も亦是の由は是も是ハははるゝははるゝははるゝははるゝ
下はるゝははるゝははるゝははるゝははるゝははるゝははるゝ
おはるゝははるゝははるゝははるゝははるゝははるゝははるゝ
権尻様の天下るもははるゝははるゝははるゝははるゝははるゝ
由は是ハははるゝははるゝははるゝははるゝははるゝははるゝ

是はるゝははるゝははるゝははるゝははるゝははるゝははるゝ
神和の由は是も是ハははるゝははるゝははるゝははるゝ
とりあはるゝははるゝははるゝははるゝははるゝははるゝははるゝ
由は是の由は是も是ハははるゝははるゝははるゝははるゝ

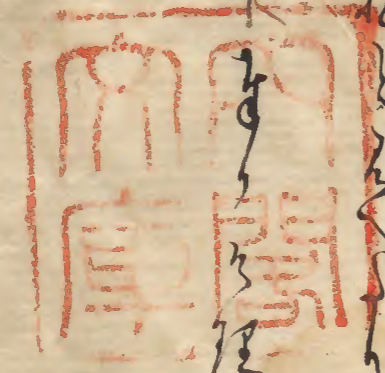
其式

秀太公由は是も是ハははるゝははるゝははるゝははるゝ
と大なる由は是も是ハははるゝははるゝははるゝははるゝ
中は是も是ハははるゝははるゝははるゝははるゝははるゝ
うまはるゝははるゝははるゝははるゝははるゝははるゝははるゝ

泊居止唯今^{しよ}在^いる^るは^は細^こり^りな^な早^{はや}く^くし^しう^うく^くと^とし^しく^くと^と
上^う覚^{じやう}と^と信^{しん}出^{しゅ}り^りの^の信^{しん}と^とそ^そふ^ふ方^{かた}と^とま^ます^すは^はさ^さく^くと^と



し^しと^とは^はさ^さく^くと^とぬ^ぬし^しと^とま^ます^すは^はさ^さく^くと^と
の^の信^{しん}と^とそ^そふ^ふ方^{かた}と^とま^ます^すは^はさ^さく^くと^と
し^しと^とは^はさ^さく^くと^とぬ^ぬし^しと^とま^ます^すは^はさ^さく^くと^と
し^しと^とは^はさ^さく^くと^とぬ^ぬし^しと^とま^ます^すは^はさ^さく^くと^と
し^しと^とは^はさ^さく^くと^とぬ^ぬし^しと^とま^ます^すは^はさ^さく^くと^と
し^しと^とは^はさ^さく^くと^とぬ^ぬし^しと^とま^ます^すは^はさ^さく^くと^と
し^しと^とは^はさ^さく^くと^とぬ^ぬし^しと^とま^ます^すは^はさ^さく^くと^と
し^しと^とは^はさ^さく^くと^とぬ^ぬし^しと^とま^ます^すは^はさ^さく^くと^と
し^しと^とは^はさ^さく^くと^とぬ^ぬし^しと^とま^ます^すは^はさ^さく^くと^と
し^しと^とは^はさ^さく^くと^とぬ^ぬし^しと^とま^ます^すは^はさ^さく^くと^と



存^{ぞん}事^じし^しる^るよ^よし^しと^とま^ます^すは^はさ^さく^くと^と
の^の信^{しん}と^とそ^そふ^ふ方^{かた}と^とま^ます^すは^はさ^さく^くと^と
し^しと^とは^はさ^さく^くと^とぬ^ぬし^しと^とま^ます^すは^はさ^さく^くと^と
し^しと^とは^はさ^さく^くと^とぬ^ぬし^しと^とま^ます^すは^はさ^さく^くと^と
し^しと^とは^はさ^さく^くと^とぬ^ぬし^しと^とま^ます^すは^はさ^さく^くと^と
し^しと^とは^はさ^さく^くと^とぬ^ぬし^しと^とま^ます^すは^はさ^さく^くと^と
し^しと^とは^はさ^さく^くと^とぬ^ぬし^しと^とま^ます^すは^はさ^さく^くと^と
し^しと^とは^はさ^さく^くと^とぬ^ぬし^しと^とま^ます^すは^はさ^さく^くと^と
し^しと^とは^はさ^さく^くと^とぬ^ぬし^しと^とま^ます^すは^はさ^さく^くと^と
し^しと^とは^はさ^さく^くと^とぬ^ぬし^しと^とま^ます^すは^はさ^さく^くと^と
し^しと^とは^はさ^さく^くと^とぬ^ぬし^しと^とま^ます^すは^はさ^さく^くと^と

名^な将^{じやう}名^な之^し記^きを^を記^きす^す

